

# 山の抱擁、未来への約束 一傾斜地農村に息づく文化と農業の縦結び



## 計画背景

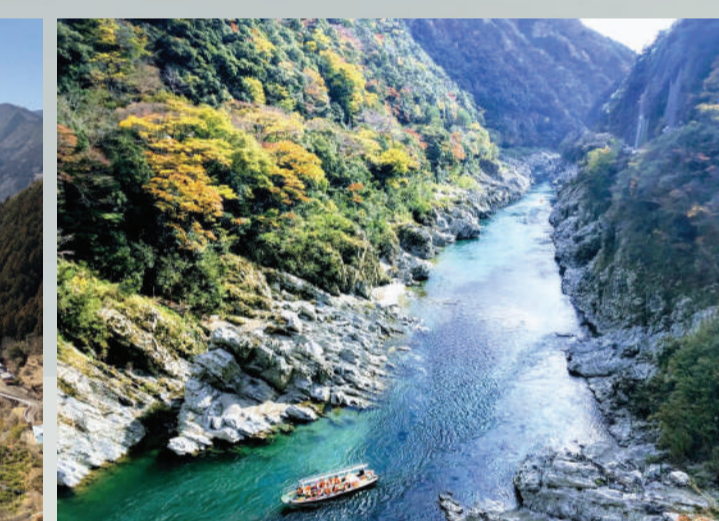
一人暮らしを始めた私は地域住民との繋がりがすごく希薄なものになったと感じた。そこで人との繋がりを大切にする「集落」に注目した。自分でご飯を作ったり洗濯したり、「生きること」の大変さも感じた。集落でも自給自足の生活をして、足りないものは村人たちで物々交換を行い助け合っていく。だが、近年の日本は集落の少子高齢化により空き家や荒地が増える「限界集落」が増加傾向にあり、私の出身地である徳島県三好市西祖谷山村も限界集落として認定されている。そこで集落が無くなった後その集落の伝統と農業、文化を継承していくための計画。

## 敷地について

徳島県三好市西祖谷山村は徳島の中でも山奥に位置しており、四方を山に囲まれてた自然いっぱいの場所である。祖谷温泉を始め、かずら橋やひの字渓谷といった観光地も多く、日本だけではなく海外からも多くの観光客が訪れる。その中でも「大歩危峽」という渓谷はその美しさから国指定の天然記念物に認定されている。その西祖谷山村の中でも人口が最も少なく標高が高い有瀬集落に設計する。有瀬集落は集落の文化が色濃く残っており、今回の計画に適しているので敷地を選定した。



有瀬上地区からの眺め



国指定天然記念物 大歩危峽

## にし阿波傾斜地農耕システム

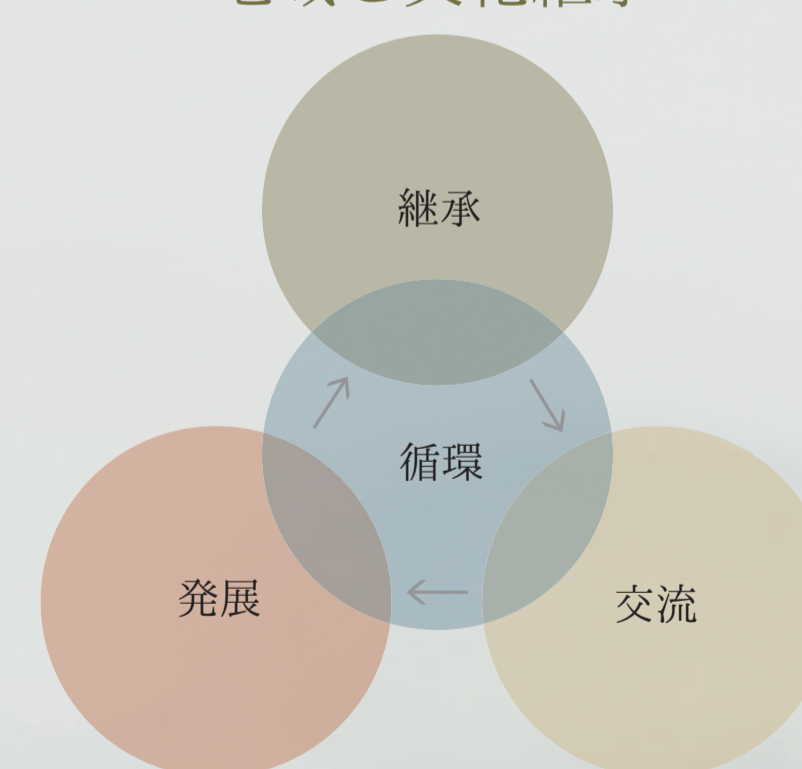
四国中央部の「にし阿波」と呼ばれる徳島県西部の山間部では、場所によっては斜度 40 度にもなる急傾斜地で、段々畑を作らず、傾斜地のまま農耕し、草地で採取した敷き草（カヤ）を畑に敷き込むことで土の流出を防ぎ、ソバやイモなどの多様な作物を栽培している。400 年以上にわたり、山間地の環境に適応したこの農耕システムが継承されてきたことにより、山村景観、食文化、そして農耕にまつわる伝統行事なども人々の手で守られ継承されており、「にし阿波の傾斜地農耕システム」は、徳島初の世界農業遺産の認定となった。（2018 年 3 月登録）この傾斜地農耕は世界農業遺産に認定されたにもかかわらず少子高齢化の影響もあり、年々農家が減少し、廃農地になっている。

## 西祖谷山村の伝統文化

西祖谷山村などの山間地域では山奥に集落があるため、外部と交流をすることがあまりなく、その地域ごとに個性豊かな伝統芸能や祭礼行事などが伝承されている。しかしアクセスの悪さや少子高齢化が進むにつれてその伝統文化は消失する危機にさらされている。そこで若い人を集落に呼び込み継承の場を設けることと、集落に訪れる人にも体験してもらうことで伝統文化をミライへと残し、集落の財産にすることを目標とする。

- 「神代踊り」1100 年以上前の雨乞いが起源とされている伝統芸能。2022 年 11/30 にユネスコ無形文化遺産
- 「有瀬かぐら踊り」有瀬集落で行われる秋祭り。仮面をつけて舞う。2001 年 5/1 に県指定無形民俗文化財

## 地域と文化継承

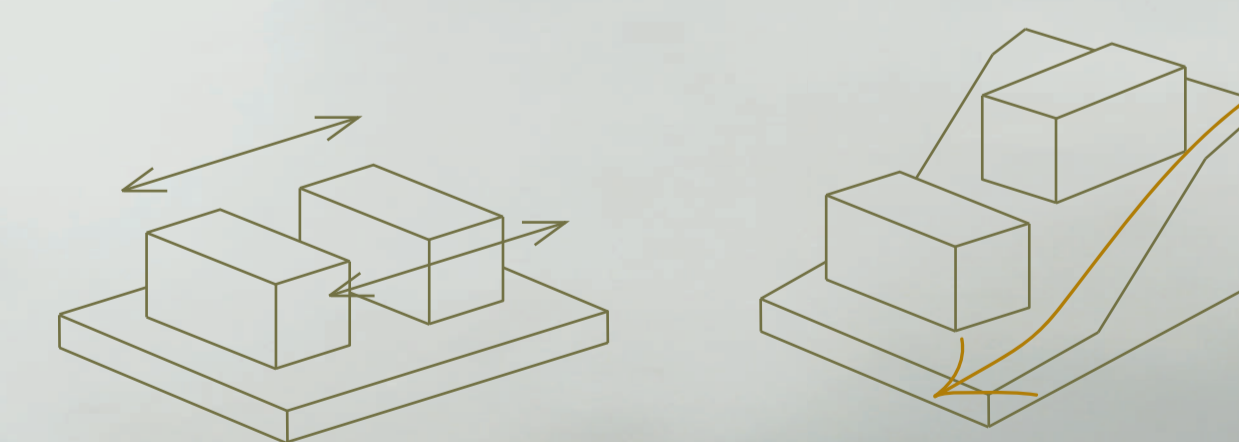


- 継承：伝統文化を披露する場所
- 交流：地域住民で意見を出し合う
- 発展：その意見を反映させる

継承し続けていくにはより進化させて行く必要があると考えた。そこで交流を増やし、より良い意見を出すことで発展し、ミライへ循環させる。そのために「交流施設」「農村舞台」を計画した。

## 斜面を活かした計画

日本の約 70% が傾斜地でほとんどの住宅は平地に設計することが多い。しかし西祖谷山村を始め、山間集落は傾斜地に住宅が立っている。そこからの眺めは他にない。そこで農家住宅とアーティスト住居、交流施設は斜面を活かすようなカタチで縦で繋がる空間を意識した。



建物が横で繋がっている

縦で流れるように繋がる

## この集落が生み出すモノ

限界集落はそのまま寂れて最終的には廃村としてその姿を消してしまう。そうするとその土地特有の文化や伝統が消えてしまい、その土地の財産を失うことになる。しかし、若い人を介入させ伝統文化を継承させるための場所を設けることで集落としての良さをミライへ残すことができる。それは昔の日本の良さや人との繋がりを知り、守っていくことにも繋がっていく。

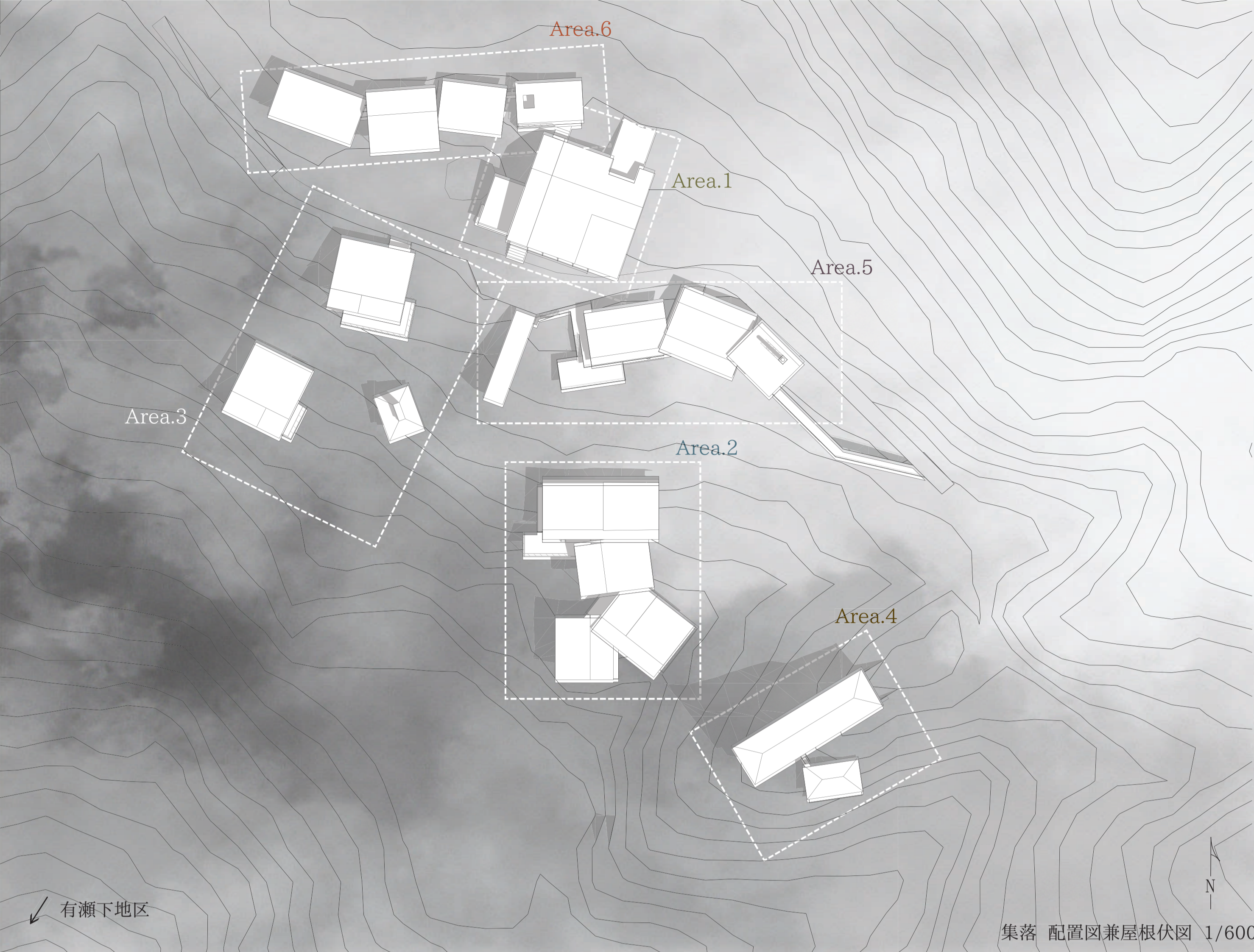
急斜面で畑を耕す夫婦

斜面を活かした農耕システム

雨乞いの儀式「神代踊り」

演舞「有瀬かぐら踊り」





## 1つの集落と6つのエリア。

交流	職	農業
伝統	アート	住・食

6つのエリアを設け1つ1つのエリアに意味を持たせた。住民の交流、職を持つ、農業を継承、集落の職と住を体験。アートでの創作活動、伝統を守るより良い集落へと変わっていく。



### 敷地情報

住所：徳島県三好市西祖谷山村有瀬上地区  
敷地面積：約 39000 m<sup>2</sup>  
人口：18人 (有瀬上地区全体)  
用途：集落  
延べ床面積：2,254 m<sup>2</sup> 建築面積：2,762 m<sup>2</sup>  
形式：下部構造 S 造 上部構造木造

- Area.1 交流施設・管理室・直売所  
複合施設、交流スペース1、交流スペース2、管理室、会議室、野菜直売所
- Area.2 オフィス住宅  
オフィス住宅1、オフィス住宅2
- Area.3 農家住宅  
農家住宅1、農家住宅2、イカ
- Area.4 農村舞台お堂  
農村舞台、お堂
- Area.5 鍛冶場・アーティスト住宅・ギャラリー  
アーティスト住宅1、アーティスト住宅、ギャラリー、鍛冶場
- Area.6 コンドミニウム・レストラン  
レストラン、エントランス棟、コンドミニウム1、コンドミニウム2

## Area.1 交流施設・管理室・直売所

集落をより良くする。  
集落の中央にあるこの複合施設は集落をより良くするために話し合う会議室と最上部には移住者のコンドミニウムの手続きをする管理室を設けた。  
また気軽に雑談ができる交流スペース、人通りが多い最下部には集落で採れた新鮮な野菜を販売する直売所を設けた。

傾斜地を活かした断面計画  
レベルごとに交流スペース、会議室、管理室と傾斜地を活かした計画とする。

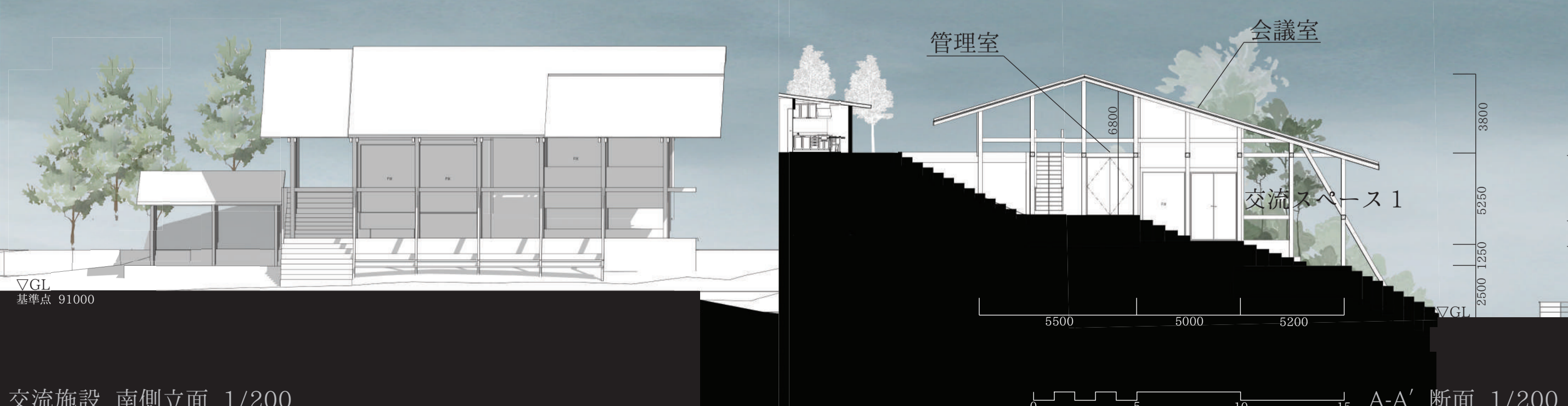
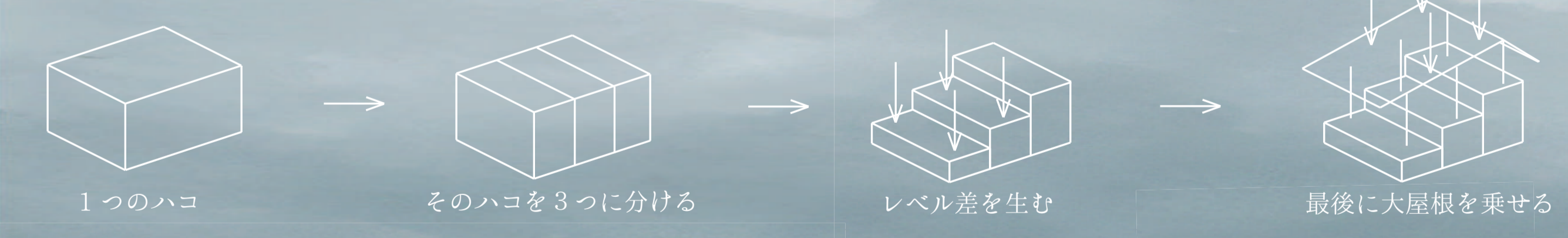


交流スペース 木造で優しい雰囲気

傾斜地を活かしたレベル差のある空間

会議室 解放的な空間で利用しやすい

### 形状ダイアグラム



交流施設を突き抜ける大階段。  
約20mにもなるこの大階段は交流施設の西側に位置しており、上下移動だけではなく用途によって左右にも移動することができる。  
また踏面を広くとっているため何かイベントがあればベンチとしても利用することができ、この集落の中心となる建物である。

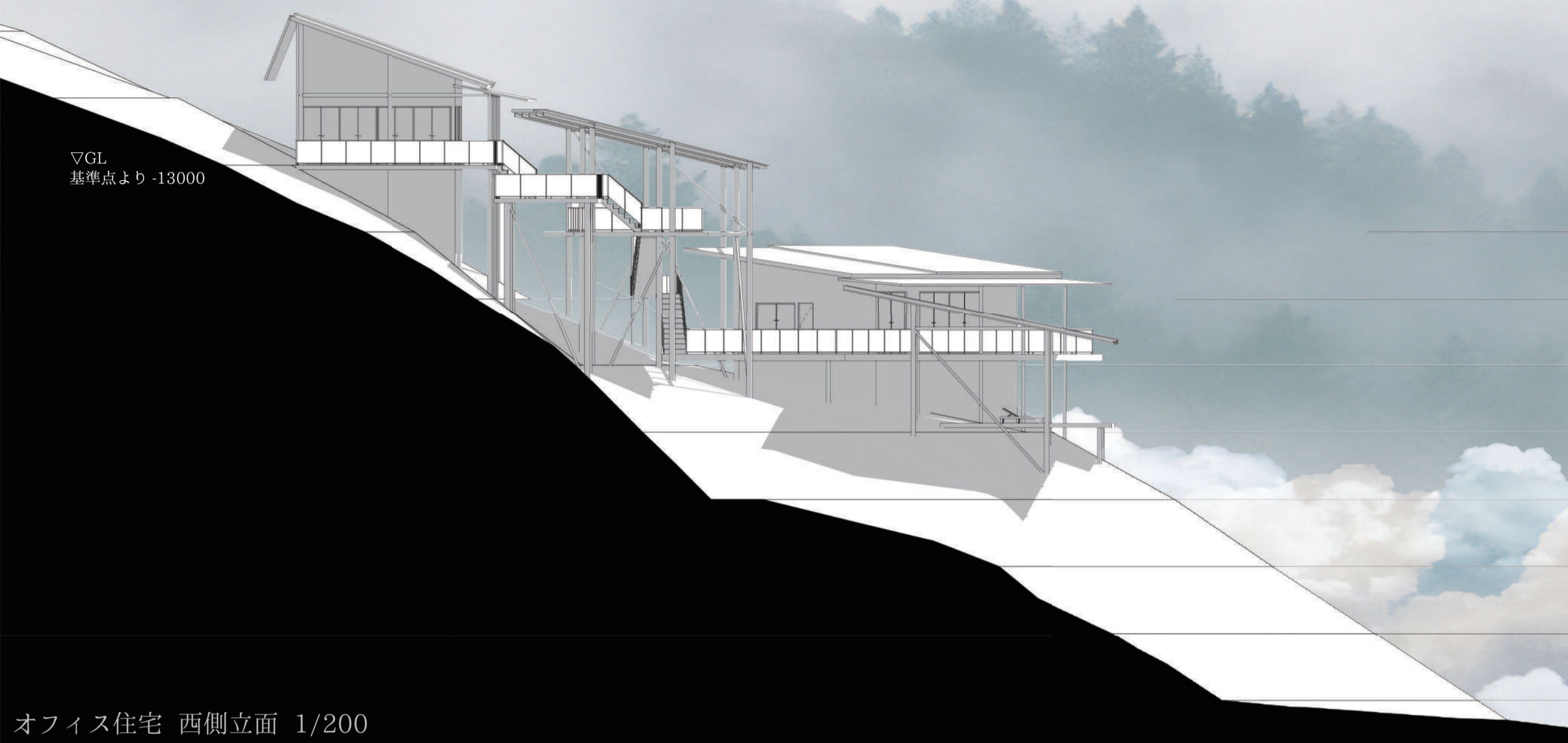
# Area.2 オフィス住宅

若者が集落を活性化させる。

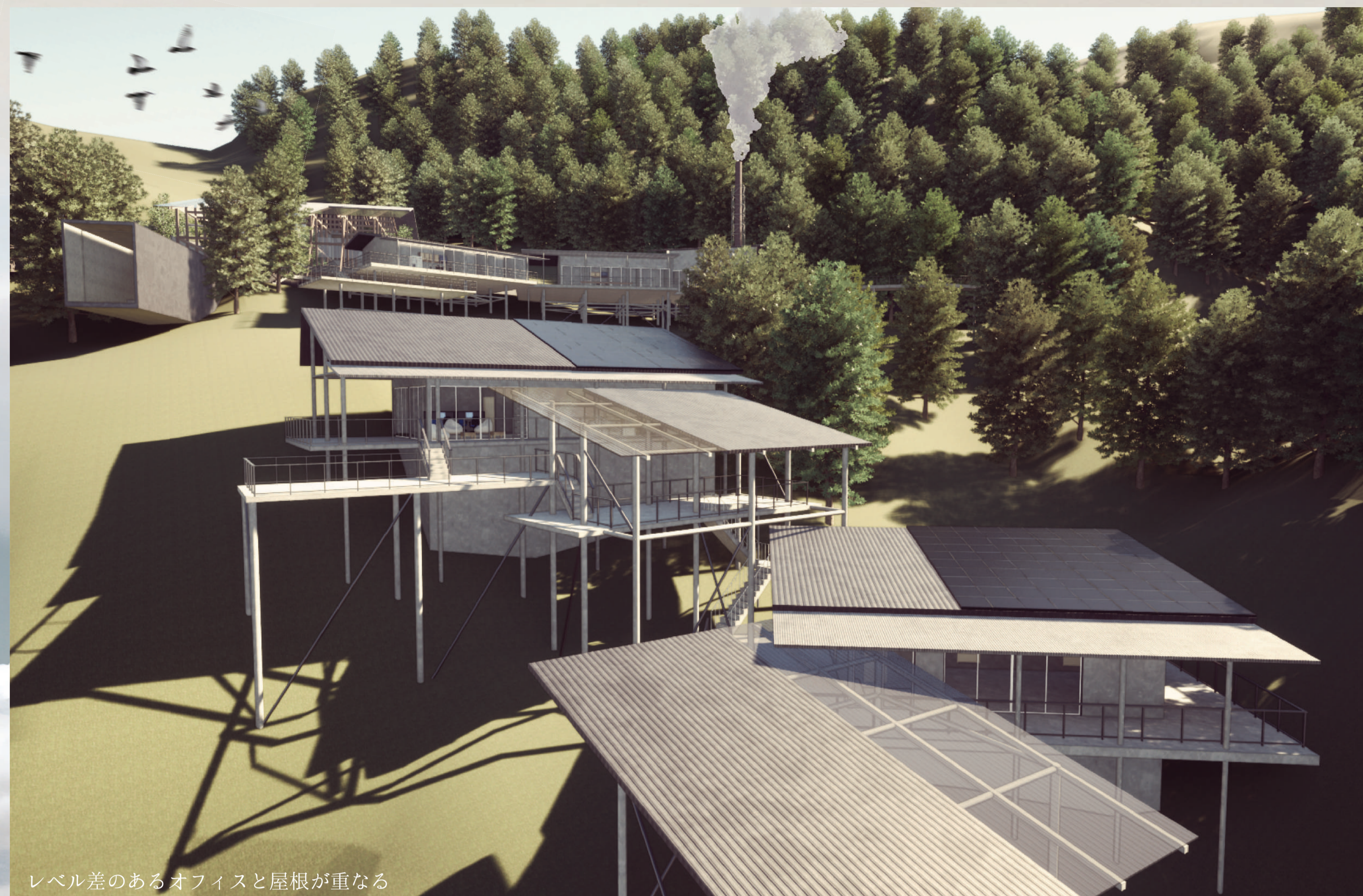
今まで農業林業など第1次産業が盛んであった集落にIT産業を誘致することで若者を中心とした集落を形成。都会とは違いテラス席で作業するといった自然に囲まれた環境と仕事の合間に農業を体験し、そこで採れた新鮮な野菜を使った料理でオフィスの仲間と食卓を囲むことでより一層仲を深める。

住民情報・オフィスメンバー

C夫婦 C男(36)代表 C子(35)  
神奈川県から移住した元大手IT企業出身  
D男(34)C男と同企業出身(後輩当たる)  
E男(24)西祖谷山村出身、大阪の大学を卒業した後このオフィスで働く



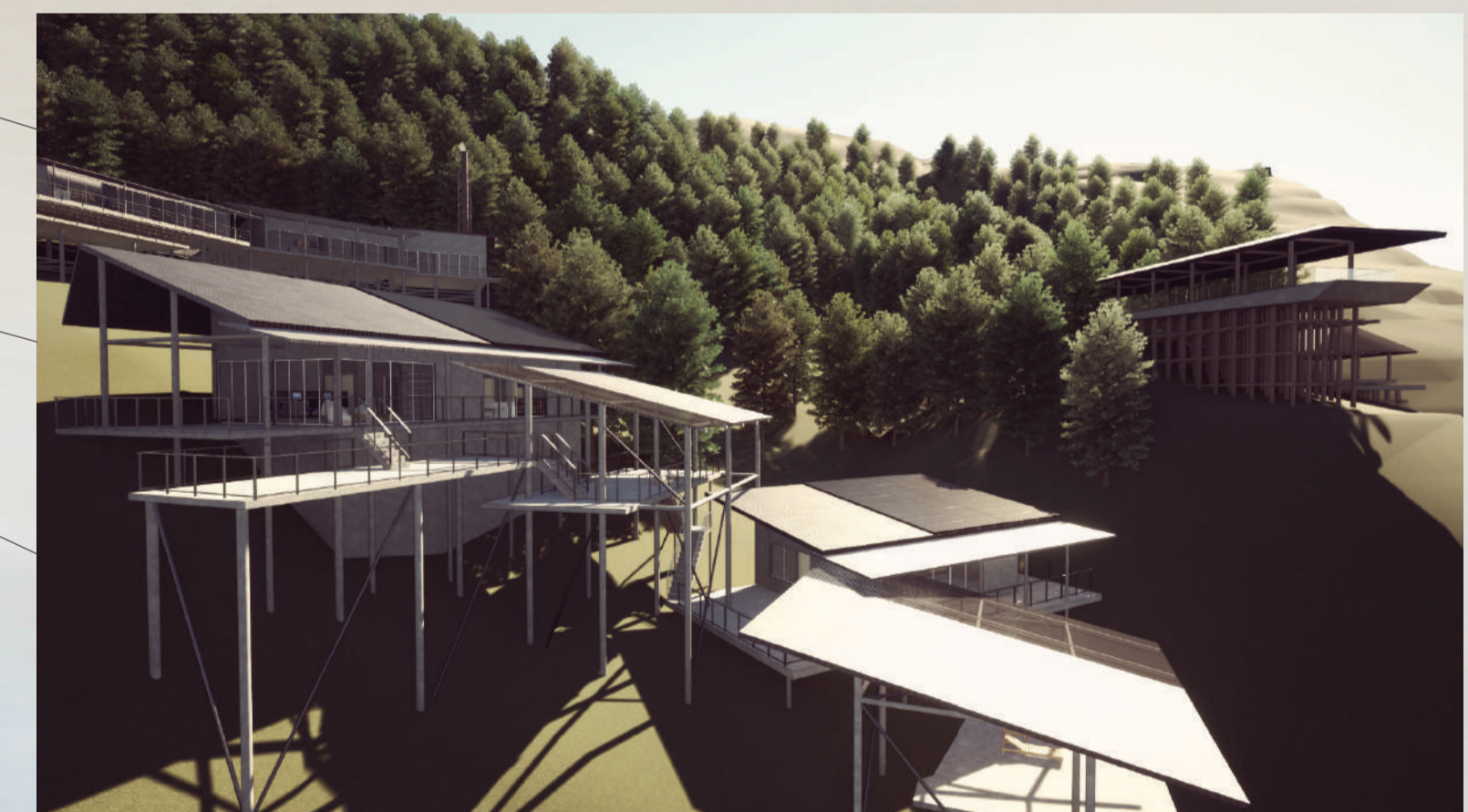
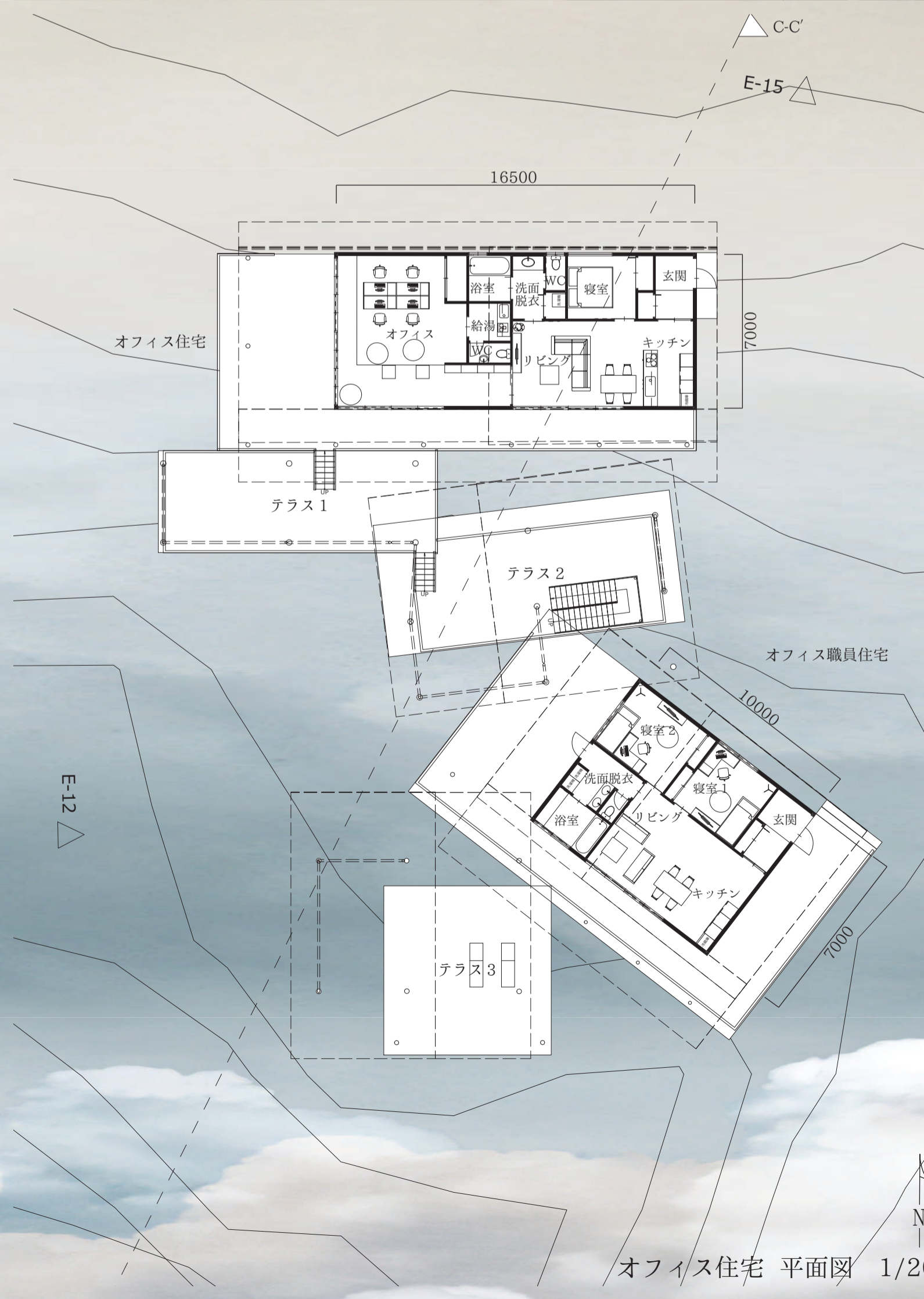
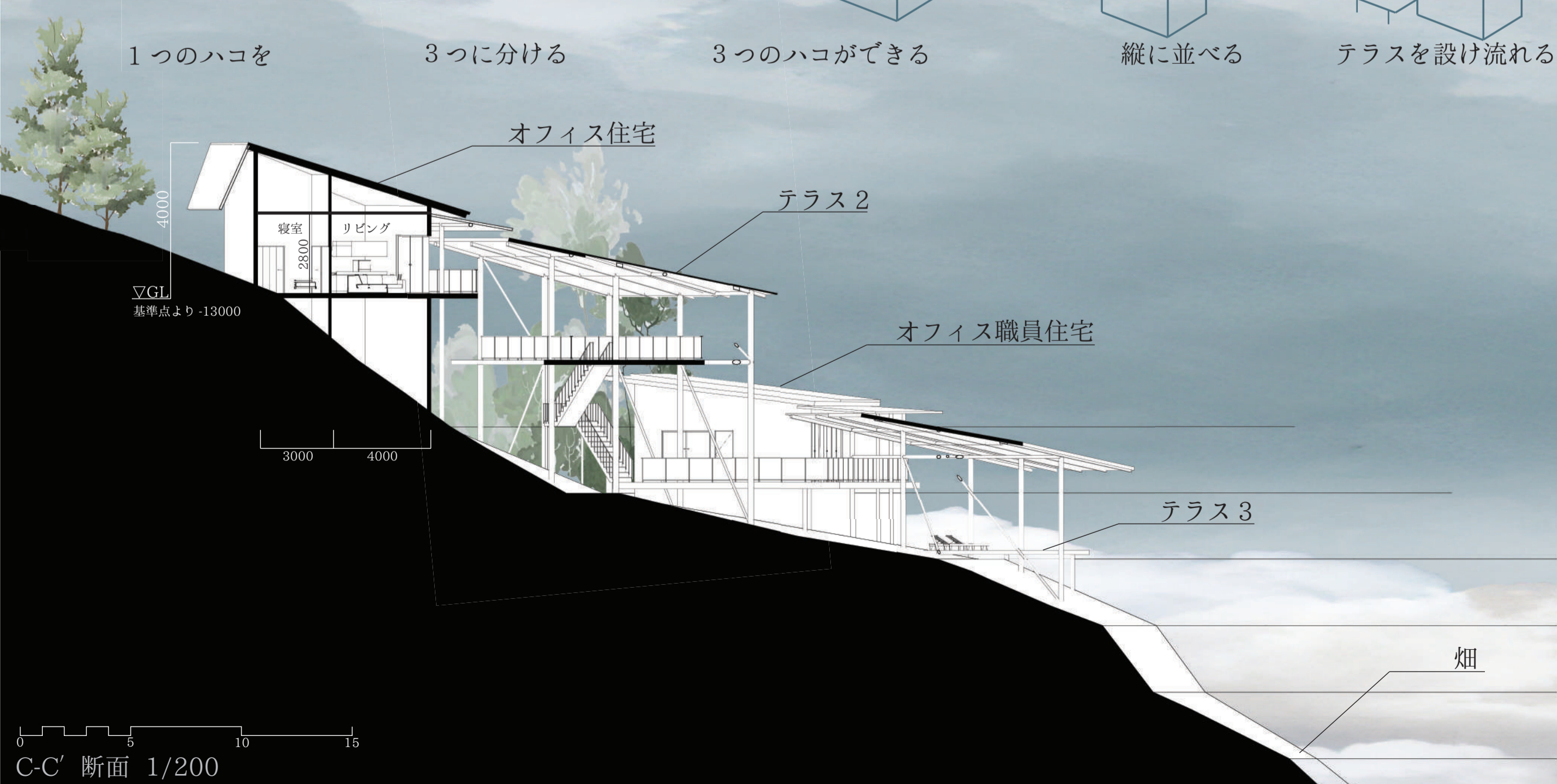
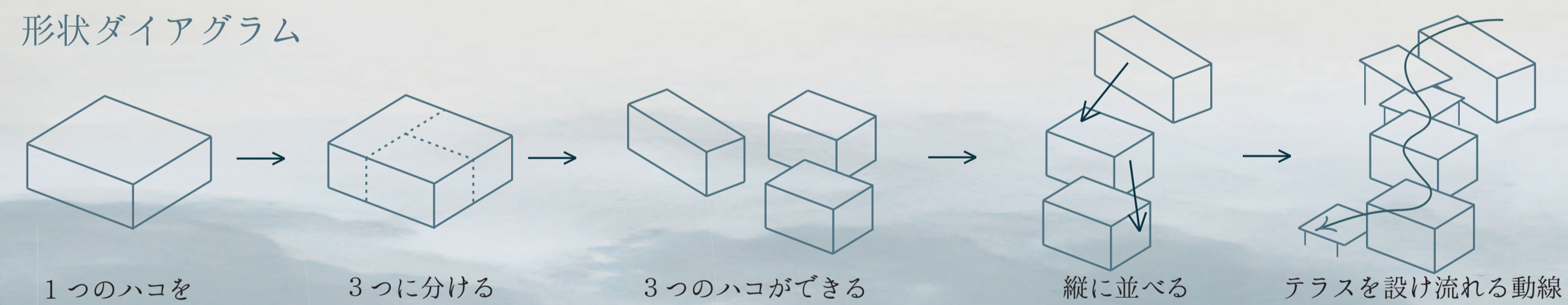
オフィス住宅 西側立面 1/200



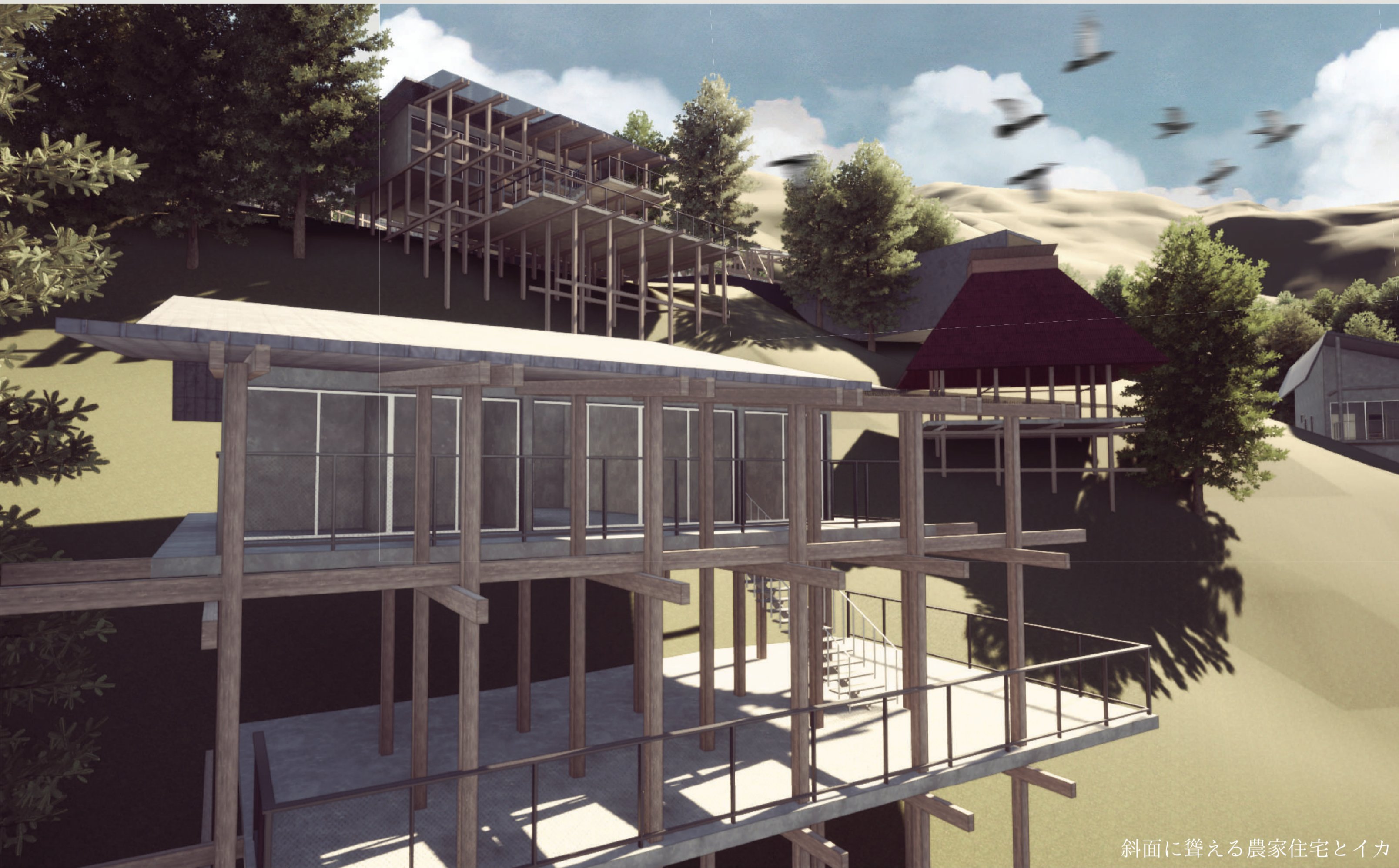
自由な場所でのデスクワーク。

今までIT企業の作業スペースといえば椅子に座ってデスクに向かう固いイメージがあったが、このオフィスは多くのテラスを設けており半屋外で自然を感じながらのびのび作業ができる。都会のオフィスにはない良さがこの集落には広がっている。

形状ダイアグラム



# Area.3 農家の住宅



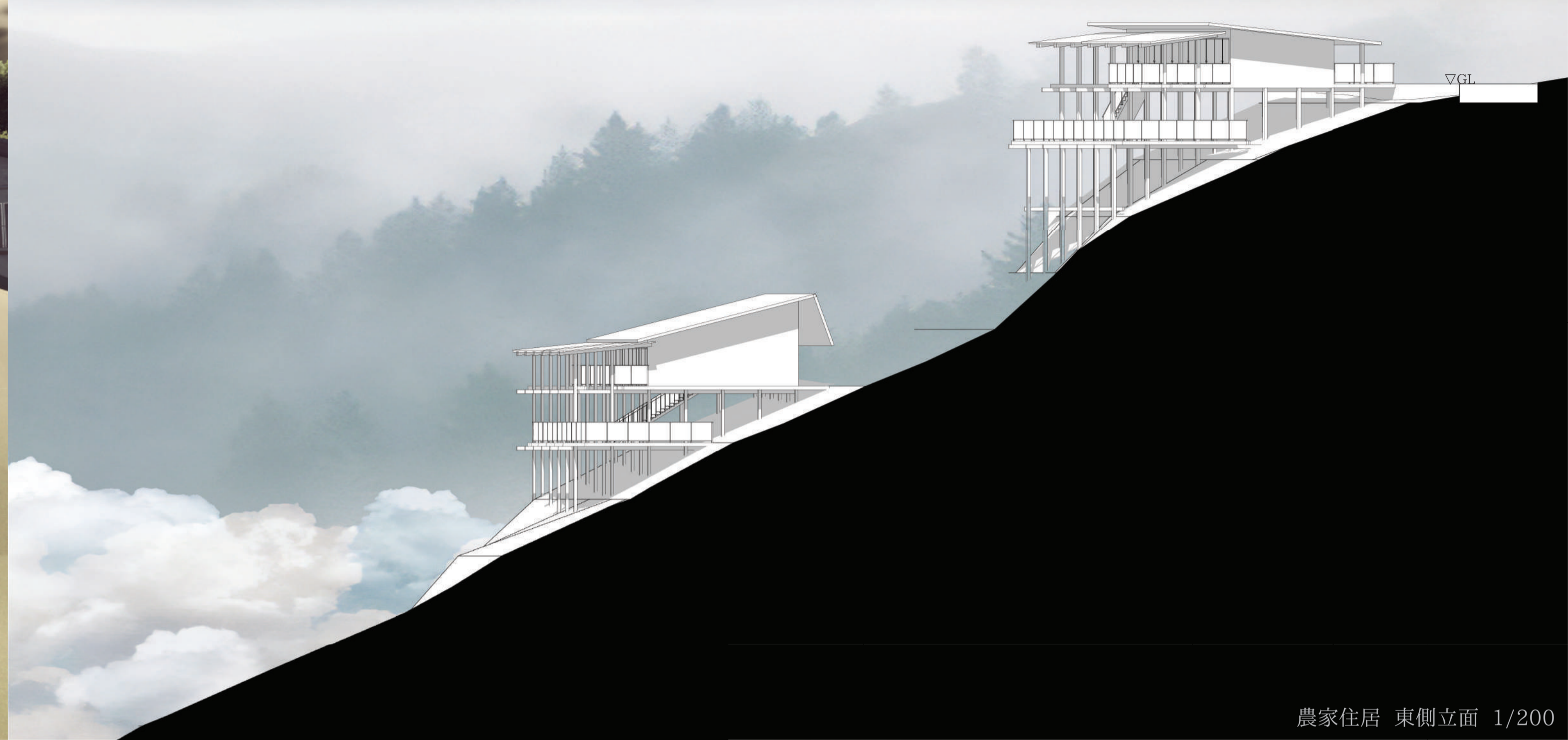
斜面に聳える農家住宅とイカ

農業を継承していく。

「にし阿波傾斜地農耕システム」を継承していくための住宅。  
 斜面上下で流れるように二つの住宅を配置する。  
 住宅のスキマには畑と「イカ」と呼ばれる傾斜地農村特有のテラスを設けることで野菜の物々交換をしたり、イカで休憩しながら村民が交流を深めることができる。

木組みの基礎を活かす。

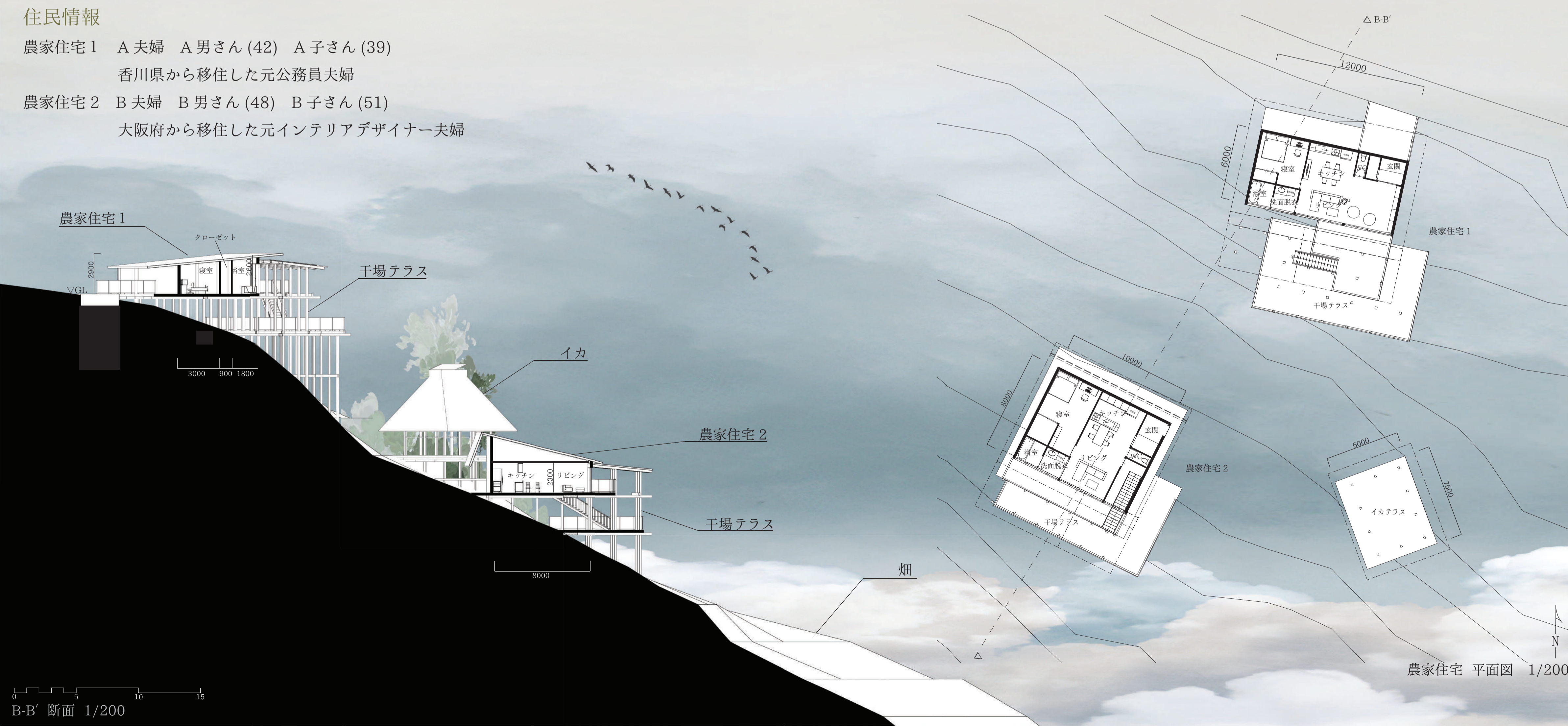
木組みでできた住宅は耐震性を向上させ、下のテラスでは祖谷地方の食材を「干す文化」に適切な場所となるように通風を確保した。



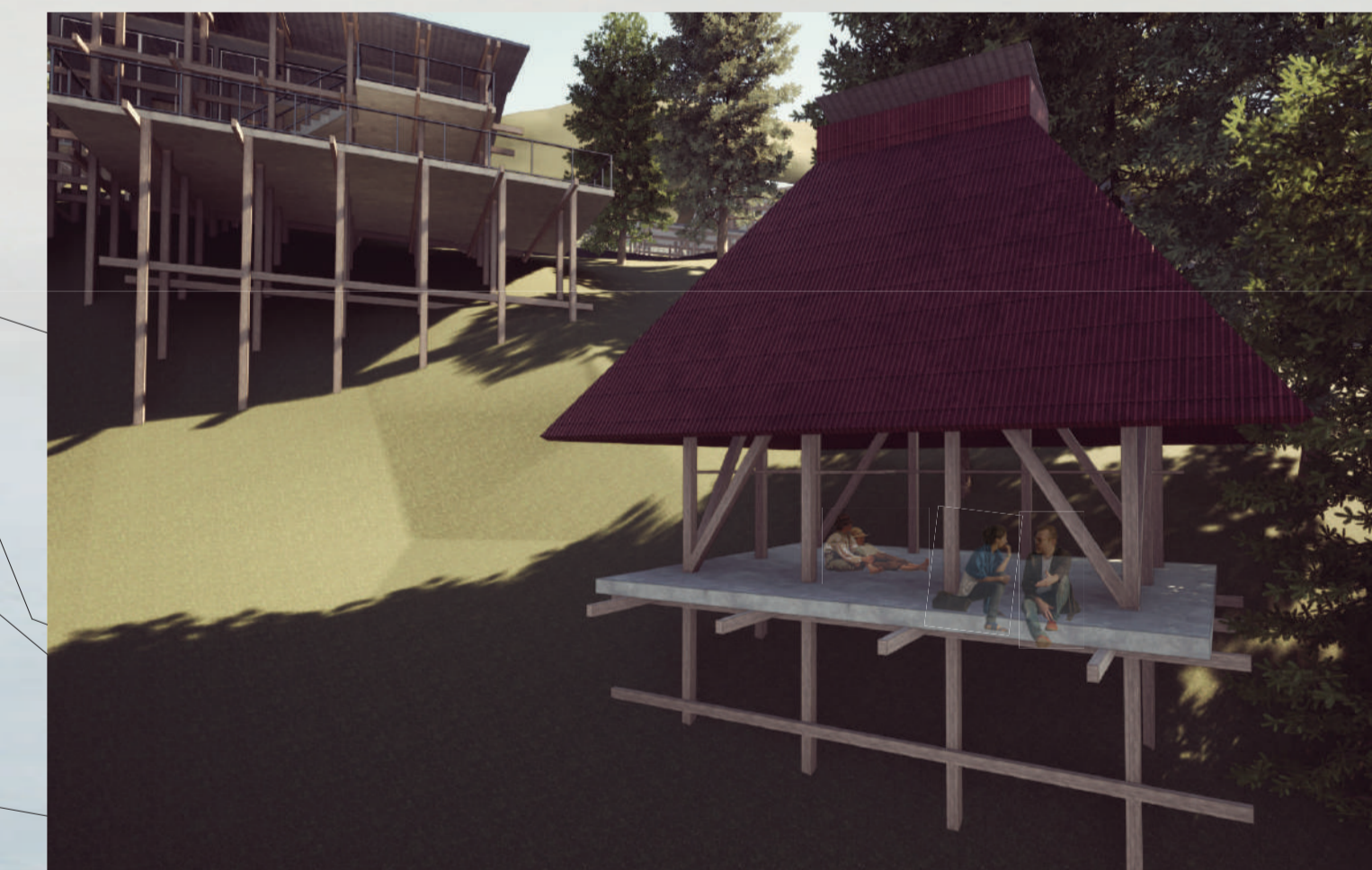
農家住居 東側立面 1/200

## 住民情報

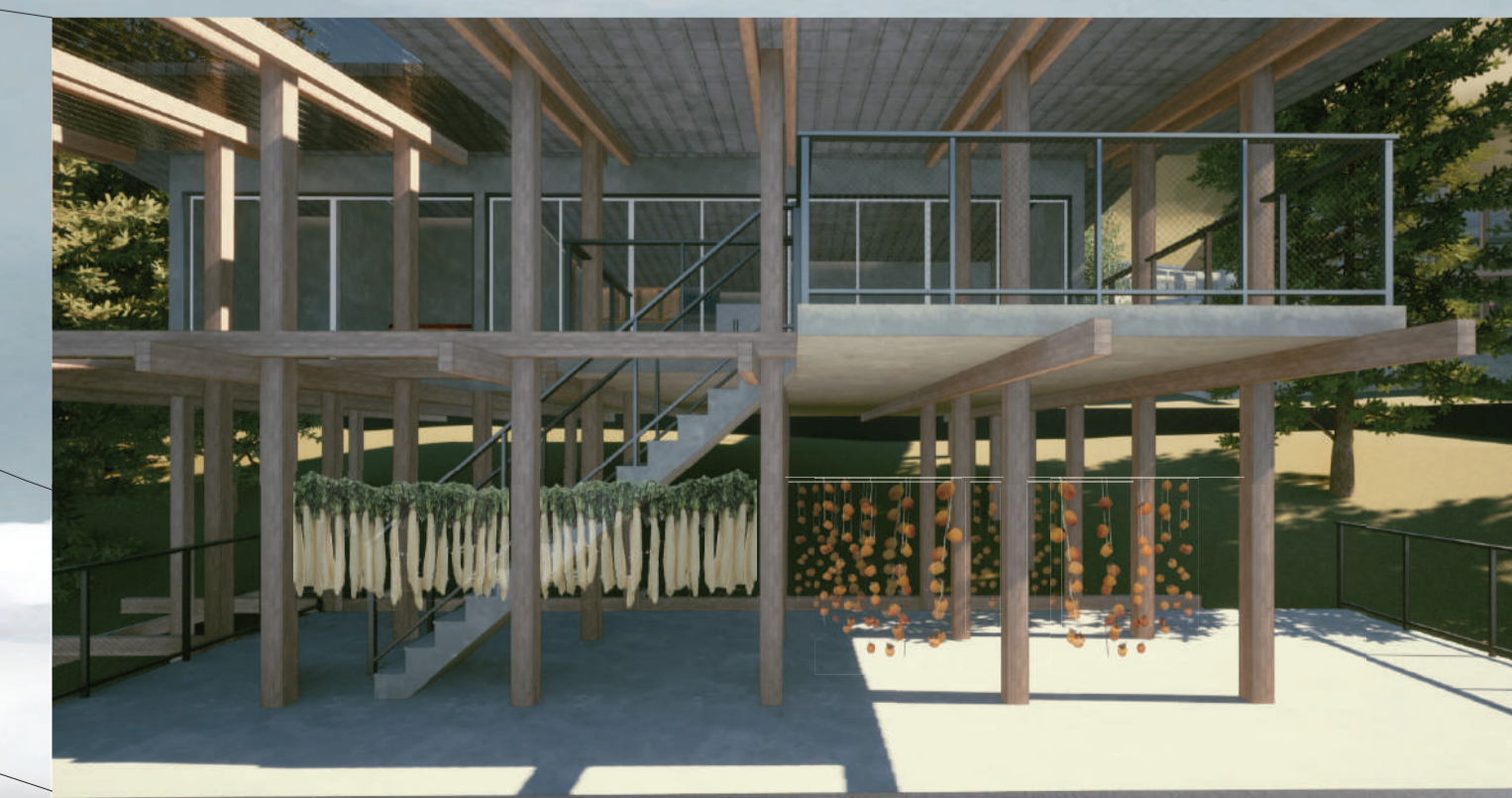
- 農家住宅1 A夫婦 A男さん(42) A子さん(39)  
 香川県から移住した元公務員夫婦
- 農家住宅2 B夫婦 B男さん(48) B子さん(51)  
 大阪府から移住した元インテリアデザイナー夫婦



農家住宅 平面図 1/200



有瀬集落にみられる茅葺きトタン屋根を模した「イカ」



農家住宅1のテラス(木組み基礎)に食材を干してる様子

# Area.4 農村舞台・お堂



雲海に囲まれた農村舞台

集落の伝統文化を継承する。

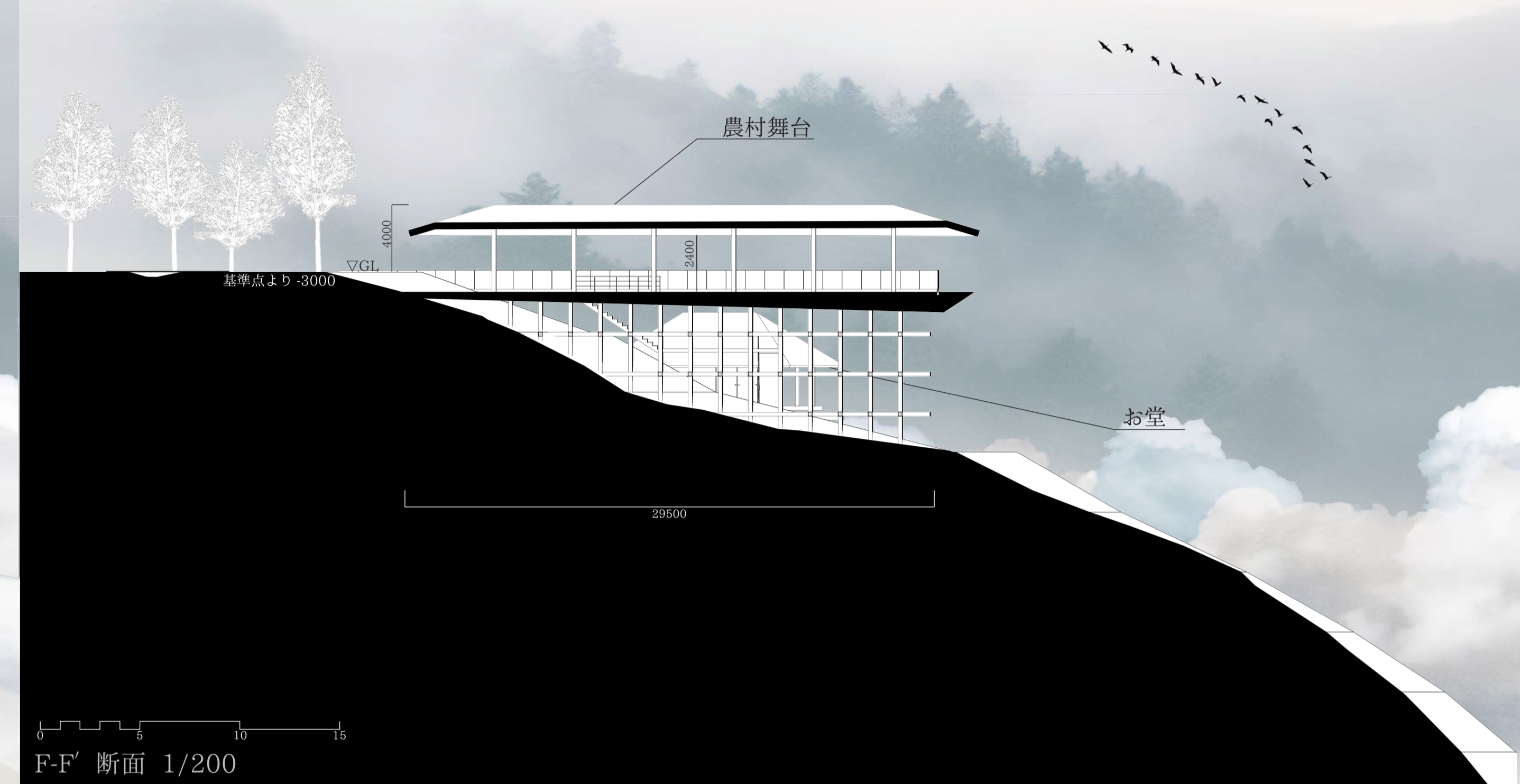
この農村舞台では西祖谷山村の伝統文化であるユネスコ無形文化遺産の「神代踊り」と有瀬集落の舞踊である「有瀬かぐら」を披露する場である。傾斜地農村を背景に踊り舞う姿はとても幻想的で訪れる観光客も伝統文化に触れることができる。

農村舞台を変化させる。

伝統芸能を披露するための場所ではなく、集落を見渡すことのできる展望台の要素を取り入れることで訪れた人が立ち寄りやすい場所を目指した。

お堂文化を残していく。

五穀豊穡や雨乞いなどの祈りを捧げる場としてお堂が利用される文化を残していく。農村舞台の木組みの中を通るように階段を降りていくと、そこには見晴らしの良いお堂が現れる。



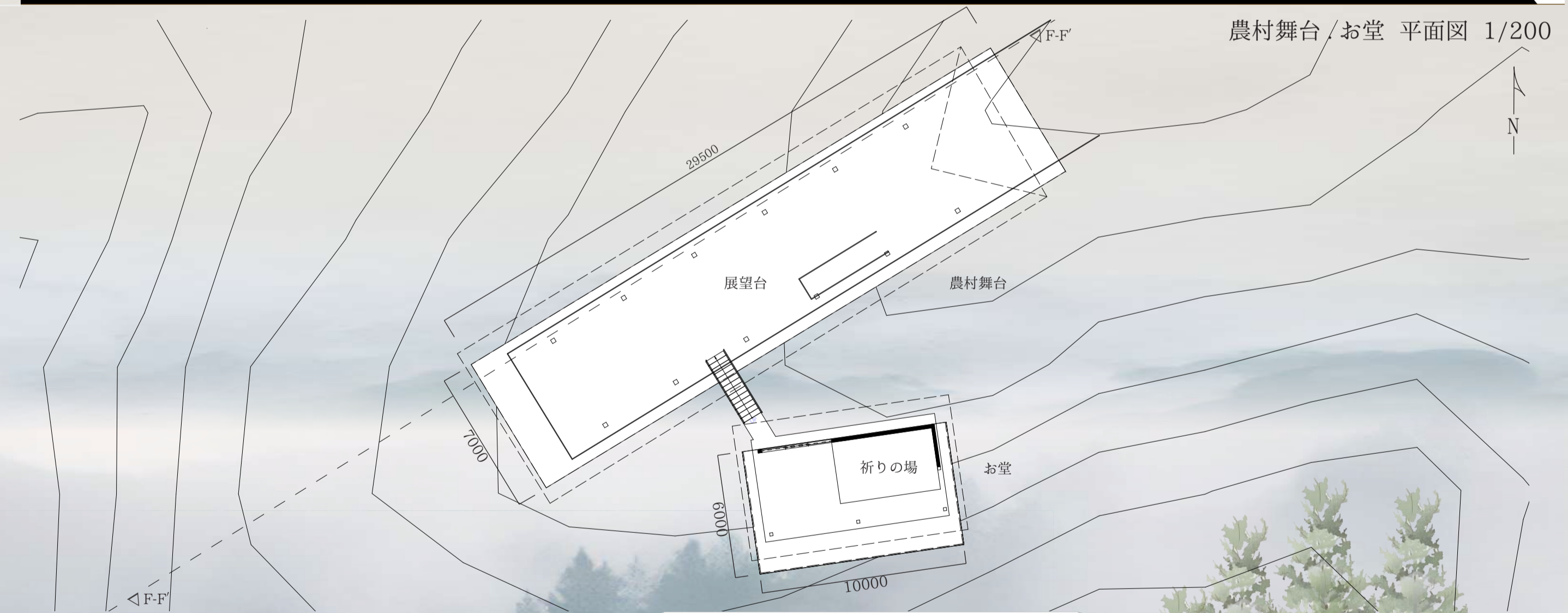
## 農村舞台について。

徳島県の山間集落は山奥に位置しており繁華街へ遊びに行くことができない。そこで集落の人たちが力を合わせ「農村舞台」という娯楽を楽しむための場所を作った。この農村舞台が建設されたのは幕末期ごろといわれており、娯楽だけではなく豊作祈願や豊作感謝の祭りも行われ、歌や踊りなどの芸能も奉納した。この歌と踊りを練習するための場所としても農村舞台が利用され、人が少なくなれば人形を作りそれを操って芸を披露するという話もある。

集落の人と力を合わせてできた農村舞台と伝統芸能は徳島県の文化財として未来へと継承されている。



三好市西祖谷山村 後山農村舞台 徳島市八多町 犬飼農村舞台  
後山農村舞台は襖を動かして柄を変化させる「襖からくり」を披露する舞台 犬飼農村舞台は人形を操り劇をする「人形浄瑠璃」を披露する舞台



農村舞台で神代踊りが舞う



お堂でのんびりと過ごす人々



# Area.5 コンドミニウム・レストラン

## 集落の「住」を体験する。

集落の移住体験ができる短期滞在型の宿として貸し出す。気軽に移住を体験し、畑で収穫した野菜を調理し、集落の人と食卓を囲みながらご飯を食べる。そこで人の暖かさや自然の良さをより感じ移住者を促進させる。

## 集落の「食」を体験する。

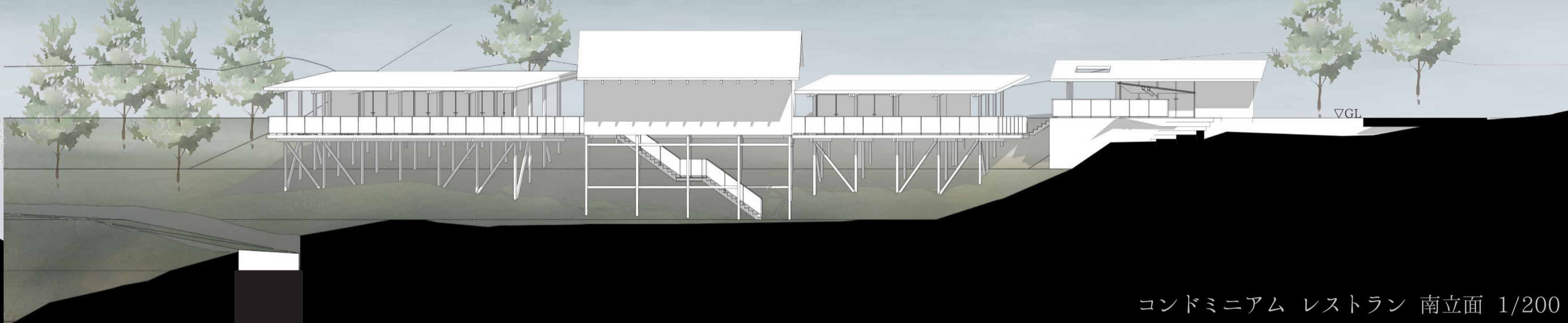
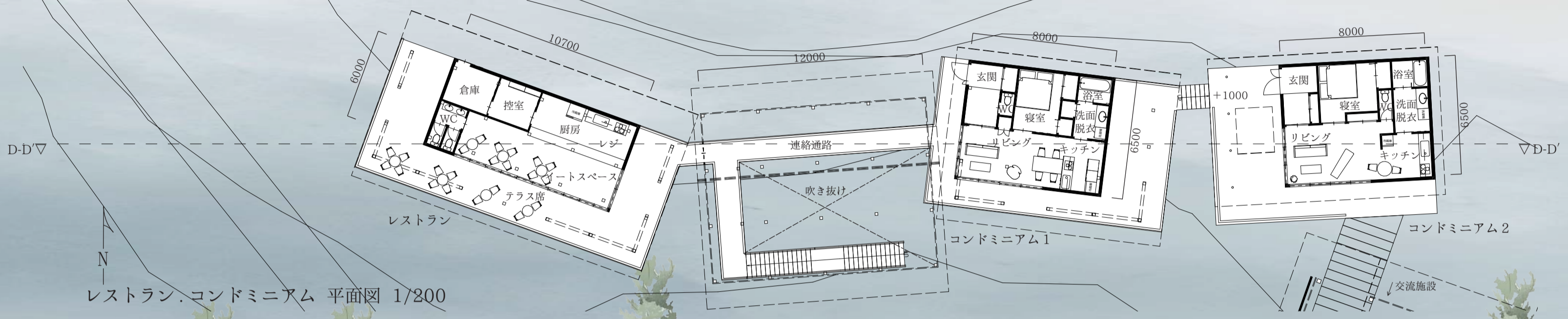
集落で収穫した新鮮な野菜を郷土料理に使用し傾斜地農村を眺めながら味わうことができる。この集落でしかできない体験。



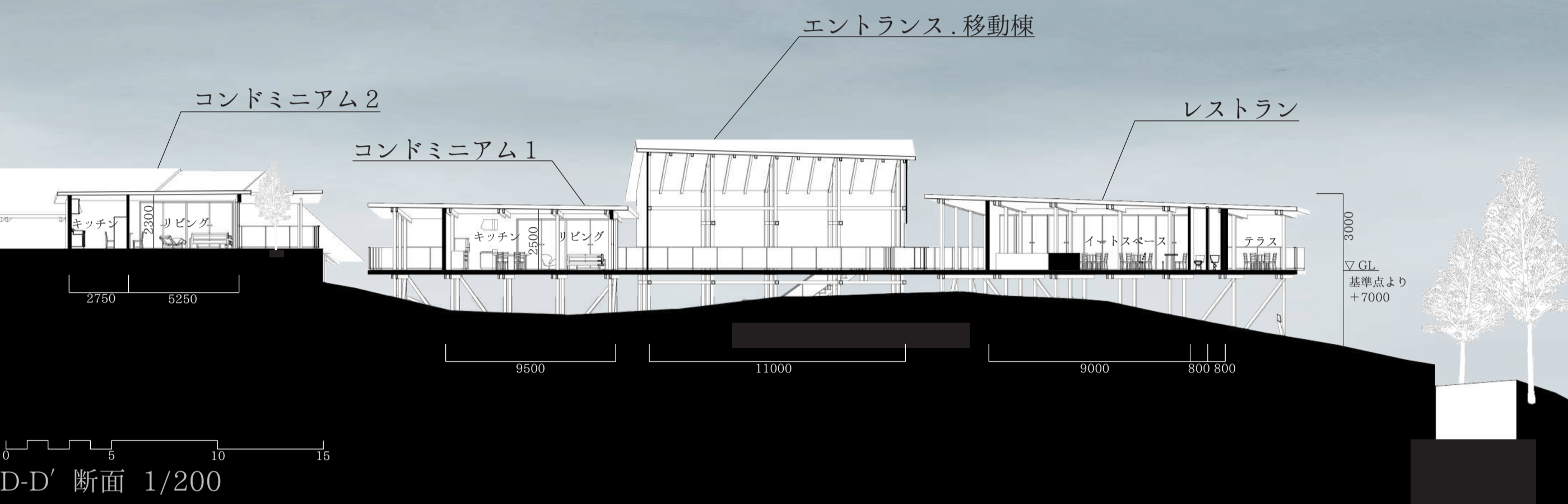
レストランテラスから集落を眺める

エントランス棟 木組みと植栽で自然を感じる

エントランス棟 コンドミニウム正面



コンドミニウム レストラン 南立面 1/200



D-D' 断面 1/200

# Area.6 鍛冶場・アーティスト住居・ギャラリー

## 自然の中で作品を創り上げる。

自然に囲まれた土地で自然の音を聞きながら創作活動に励むことができる。オープンなアトリエで地域住民と話しながらか絵をかいたり、絵画教室を開くことで交流をより深めその交流を通してより良い作品を創っていく。



鍛冶場 アーティスト住居 南側

傾斜地から突き出たギャラリー

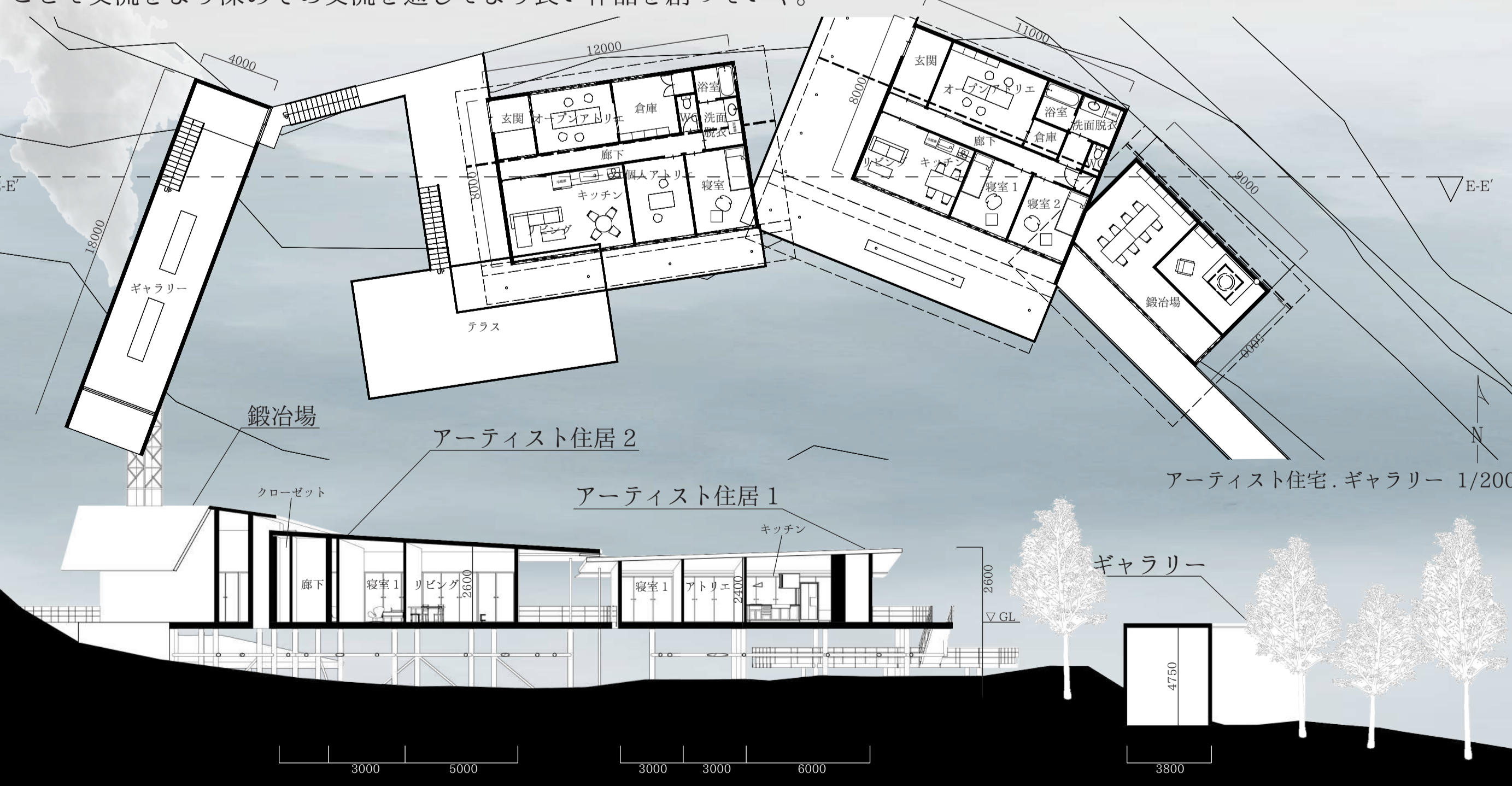
ギャラリー内観

テラスからの眺め

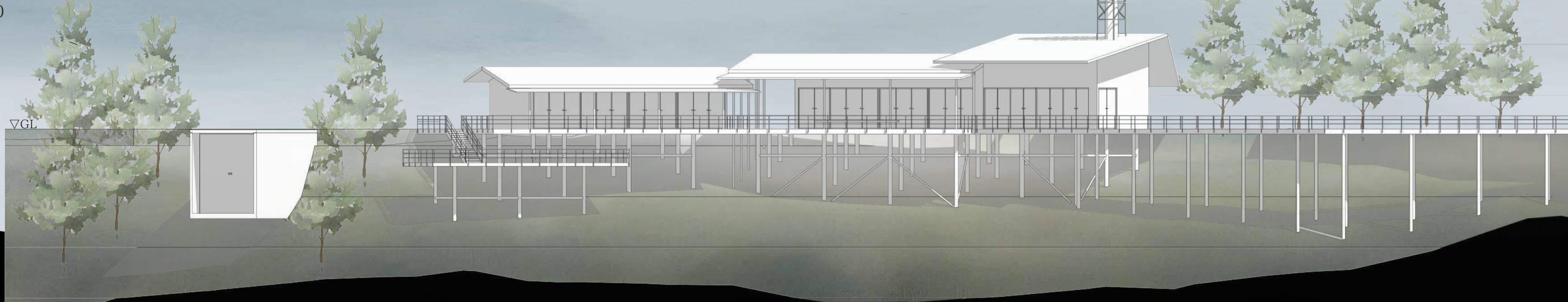
鍛冶場で農具を継承。  
急斜面での農作業では普通の鋤を使って作業することができない。そこで角度をつけた祖谷地方特有の農具を作る鍛冶場が存在した。それを継承していくための場所である。

## 住民情報

- アーティスト住居1  
D子(28) 東京都出身 美術大学卒業後 海外留学を経て集落で創作活動に励む。
- アーティスト住居2  
F男(34) 徳島県出身 建設業の鍛冶工を経て集落で独立。伝統継承のため鍛冶教室を開いている。
- G男(26) 岡山県出身 F男の弟子



アーティスト住宅・ギャラリー 1/200



鍛冶場 アーティスト住居 ギャラリー 南側立面 1/200

E-E' 断面 1/200